



こーひーぶれいく

ライブスチーム

石川 剛弘

Ishikawa Takahiro

私の普段の業務は静電加速器や X 線発生装置・ガンマ線照射装置の維持管理や照射サポートである。この装置のユーザーから私の少し変わった趣味について執筆の推薦があったため、今回は本稿で紹介したいと思う。

私の趣味とは、ずばり鉄道である。鉄道の趣味と言えば写真、乗車、時刻、知識など様々な世界がある。その中でも私は鉄道模型を趣味としている。鉄道模型はゲージ（線路幅）という規格が数種類あり、国内は N ゲージや HO ゲージが多い。しかし私は父の影響もあってか、小学生の頃から始めた JR 線（狭軌鉄道）の 1/12 スケールとなる 3.5 インチゲージや 1/8.4 スケールの 5 インチゲージの大型鉄道模型の車両製作を専門としている。このゲージ内にも分野があり私はライブスチームを主としている。ライブスチームとは、石炭を燃料とし銅製のボイラーで水蒸気を発生させ、蒸気エンジンを動力として使用し、実車と全く同じ機構で走行する、正に小型蒸気機関車である。ライブスチームはイギリスやドイツなどの海外ではメジャーであるが、日本国内ではまだまだ小規模である。一般的にはミニ SL と言われ、子供から大人まで乗車可能な鉄道模型として多くの公園でも見ることができるが、その多くは蒸気機関車を模した電動車が多い。私はそれでは満足できず、ライブスチームに拘っている。

主に旧国鉄型蒸気機関車を製作することが多く、過去には C57、D51、C62（3.5 インチ）、8620、9600（5 インチ）など 10 両ほど製作してきた。機種にもよるが完成までに早くて約 2 年、大掛かりな車両になると約 10 年掛かることもある。製作には、最低でもボール盤、フライス盤、旋盤という



息子に同乗指導する筆者（機関車は C62 形）

工作機械が必要となってくるため、自宅には工作室があり、小学生の頃から父に加工技術を習ってきた。現在は 5 インチゲージの C57 の製作を行っている。夕食後はほぼ毎日深夜 2 時頃まで作業をしている。C57 は 7 割ほどの完成度で、2025 年度中には試運転を予定している。

ライブスチームには走るためのレイアウト（線路）が必要になってくる。自宅前の畑には 3.5 インチゲージ専用の 1 周 105 m の常設レイアウトがある。これは父が作ったものであるが、個人所有のレイアウトとしては古く、某テレビ番組の珍百景にも選ばれたことがある。現在は 5 インチゲージの車両が増えてきたこともあり、5 インチゲージ専用の第 2 レイアウトの建設準備を開始したところである。

ライブスチーマーには仲間がとても重要である。私は国内で歴史、実績のあるクラブから新しいクラブまで複数所属しており、仲間からの情報を基に工作方法の改善、リアリティの向上を常に行っている。仲間の大多数が 60 歳以上であり、私がクラブに所属して約 30 年になり年齢も中年になった今でも最年少である。若い世代の物づくりが衰退し、高齢化が進んでおり正直なところ将来が不安である。少しでも若い世代へ物づくりの楽しさを伝えるため、様々な体験乗車会を開催し無料で乗車してもらっている。

今後もこの趣味を生かし、物づくり普及活動や職場での照射治具部品等の製作で貢献していきたい。

（量子科学技術研究開発機構 量子医科学研究所）